

牧師所感：

母の日を迎えて

今日は母の日である。

母の日はアメリカが制定した日であって、主にキリスト者が亡き母を慕って感謝する日である。

1907年、アメリカ在住のアンナ・ジャービスは亡くなった母のために追悼会を開き、母が生前好きだった白いカーネーションを参列者に配った。このことが母の日の制定となった。

ところで時を経てアンナ・ジャービスの死後、その娘のアンナによって祝日となり、1914年にウッドロー・ウィルソン大統領によって国民の記念日となったのである。

さて世界に広まった“母の日”は5月第二日曜日と決まり、母を敬う日となり、母に感謝する日として定着した。その証拠に健在の母には赤いカーネーションを贈って感謝する日となった。

さて私共は過ぐる5月5日を、子どもの日としてお祝いし、子どもの尊厳を守ることを誓った。だがロシアとウクライナの戦争によって、無数の子どもが犠牲になった。また今日は母の日として母を敬う日である。子どもが親に親孝行する日であるけれど、イスラエルとハマス（アラブ）の戦争のために母親は亡くなっておられない。

また母が子どもを愛しようとするが、子どもは戦争によって亡くなっている。この悲しみは如何ばかりか。この悲しみよ…。ところがこの世の母親の愛情は尊い。戦争によって亡くなった子どもに対する母親の悲嘆を心から同情する。

さて星野富弘氏は事故によって首を痛め、全身麻痺となって生きる望みを失った。ところが知人によって聖書を贈られ、彼は母に頁を捲ってもらって読んでいるうちに感化され、キリスト者となった（1974年）。彼は口にサインペンをくわえて絵を描く練習を始めた。彼は血のにじむような努力をして立派な詩や絵が描けるようになった。

彼は母親の愛情によって素晴らしい人生を生き、沢山の詩や絵を残して2024年4月24日（78歳）に生を終えた。彼は母への感謝の気持ちを詩を描いて表現した。

詩

ペンペン草

神様が一度だけ この腕を動かして下さるとしたら 母の肩をたたかせてもらおう。

風に揺れる ペンペン草の実を見ていたら

そんな日が 本当に来るような気がする。

菜の花

私の首のように 茎が簡単に折れてしまった。

しかし菜の花はそこから芽を出し 花を咲かせた。

私もこの花と同じ水を飲んでいて、同じ光を受けている。 強い茎になろう。

木

木は 自分で動きまわることができない

神様に与えられたその場所で 精一杯 枝を張り

許される高さまで 一生懸命 伸びようとしている

そんな木を 私は友達のように思っている

全ての母に 幸あれ と祈る！